



今月の話題

- 東北・新潟研修旅行レポート
- 世界地震工学会議(16WCEE)にてIISEEのブースを紹介します

研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

東北・新潟研修旅行レポート

(全コースとも11月7日~11日)

(1) Mr. Jonatan ARREOLA MANZANO (メキシコ、地震学コース)

人類やテクノロジーは危機的な自然現象(地震、津波、火山活動、台風、地滑り、洪水、干ばつ等)の発生を回避できません。これらは、地球が生きており、ダイナミックな惑星であることを意味します。しかし、安全に生活することを学び、地球と調和するためには、予防策(各国がおのこの状況に準じた技術を使うでしょう)が、その自然現象が災害となった際の痛ましい結果を避けるための最も効果的な手段となります。



孔子の「温故知新」にあるように、知識の共有、良い訓練と過去の災害からの教訓は、将来立ち向かうため、また回避するための鍵となり、回復力に富む社会を作ります。私たちにそれができれば、災害リスクの縮小を促進できるでしょう。

5日間の研修旅行で、自然災害が起こりやすい国々の出身である私たちは、2種類の地震における災害マネジメントについて様々な要素を集める機会を得ることができました。

2004年10月23日に発生した新潟中越地震は逆断層タイプの内陸地震でした。それにより河道閉塞が発生し、家屋の水没が起こりました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災は日本観測史上最大の地震であり、破壊的な津波を引き起こしました。

私たちは地域社会の復旧・復興への努力や、記念公園の建設、研究センターの運営や政府の取り組みについても知ることができました。

私たちが得たものすべては、起こりうる自然災害への私たちの反応をより良くできるものです。

(2) Mr. Leonardo Alberto ALVARADO GARCIA (エクアドル、津波防災コース)



来日前は、インターネット上でしか津波の動画や話に触れたことがなかったので、このようなひどい経験を耐え抜くことがどのようなことか想像できませんでした。今回の研修旅行を経て、犠牲者、また大切な人を亡くした方々への思いが更に深まりました。

エクアドルと日本を比べると、まだ私の国は津波に対応す

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IJSEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



る準備が整っていないと不安を覚えました。また津波災害マネジメントに対する日本の文化・技術がとても真剣に捉えられていることが立派であると感じました。

研修旅行中に見聞きした映像や話はとても衝撃的で、もし津波が自国を襲ったら、エクアドルの人々はどのように反応するのかと想像を掻き立てられました。そして最後には2つの大切な教訓を学びました。まずは、何が何でも、まずは自身の身を守ることです。自分も身内も同じように心がけていれば、遅かれ早かれ会えるからです。そして、津波情報を待つことはせずにできるだけ早く高台に逃げることです。いつ津波が発生するか誰も知り得ませんが、心づもりはしておくべきです。

(3) Mr. Raouf BENCHARIF (アルジェリア、地震工学コース)

日本は、その長い歴史の中で、大地震と世界で最も多く頻発する津波による被災を経験してきました。今回、防災対策を学び、またこれらに関するより多くの知



見を得るため、地震と津波によって大きなダメージを受けた地域を見学するための1週間に渡る研修旅行が、国際地震工学センターにより、企画されました。

最初の3日間は2011年3月に起きた東日本大震災によって大きな被害を受けた宮城県を訪れ、宮城復興局、みらいサポート石巻、瑞巖寺などを見て回りました。行く先々でスタッフの方々から温かい歓迎と震災時の様子と復興対策についての説明を受け、質問にも詳しく答えていただきました。

4日目は新潟に移動し、2004年に起きた新潟中越地震の被災地を巡り、震災時に国がそして現地がどのように動いたのかが理解できました。私は物質的面での復興だけではなく、地元の人々の震災直後の素晴らしい行動と、その後のインシヤティブ・勇気・結束力・頑強さがもたらした心的復興に感銘を受けました。

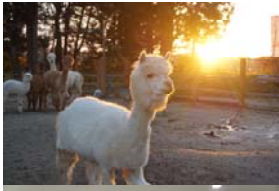
最後に、この研修旅行を企画してくださったJICAと建築研究所の方々には心より謝意を表したいと思います。この研修旅行は私たちにとって地震のもたらす大きな影響とその対策について学ぶとてもよい機会となりました。

(4) Ms. Alejandra Marcela MEMBRENO MARTINEZ (エルサルバドル、地震工学コース)

11月7日から11日にかけて地震工学コースは日本の復興技術と対策をより深く学ぶために仙台と長岡に研修旅行に行きました。



瑞巖寺、NHK 新仙台放送会館、東北大学などを訪れ、様々な状況に合わせた耐震設計と耐震補強について知識を深めることができました。個人的には石巻市と山古志村での体験がより一層心に残りました。その理由は何か？それは、私達が、私達の街のために、あるいは人々のために、なぜ、構造物をより良くするため身を粉にして取り組んでいるのか、思い出させる機会を得るものであったからです。被災地域の復興を完遂させるには住民の視点がいかに重要であるかを見ることができ良い刺激となりました。



楽しむのは今です。

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

災害後において建物の危険性に対する注意喚起や補強が必要なだけでなく、共同体の存在無くして復興はあり得ません。人々の安全を保証するために彼らの街を元に戻すだけでなく、補強し守るために、共同体により示され、また示し続けられている強さ、忍耐、結束力や強い絆は、強く印象に残るものであり、より建物を強くし社会を剛健にするために、共同体の一員として、また共同体に参加して、私たち自身も、働かなければならないことを思い出させてくれました。

私達は、このような素晴らしい機会を与えてくださった皆様に感謝しております。また、この旅行で得たものをより多くの人々と共用し、これからも学習を続けていきたいと思えます。

世界地震工学会議(16WCEE)にて IISEE のブースを紹介します

2017年1月9日から13日までチリのサンティアゴで開催される世界地震工学会議(16WCEE)にて、IISEEはブースを設置する予定です。

IISEEのブースの番号はE5です。これまでの研修や、研究活動について展示する予定です。数名のIISEEのスタッフはこの会議に参加する予定です。過去の研修生や、会議に関わられた方にお会いするのをとても楽しみにしています。

1月11日の夜に同窓会を開催予定ですが、当日は直接E5のブースにいらっしやってください。

もしこの会議に参加する予定のある方は iisee@kenken.go.jp までご連絡くださいますようお願いいたします。